

頸椎疾患徒手検査記録表

カルテ _____ 氏名 _____

A 頸髄症を疑う場合

1 Myelopathy Hand

グーパー（拳の開閉）が10秒間に20回以下しかできない場合を陽性とする。

陽性（ + ） 陰性（ - ）

2 Wartenberg 反射

病的反射で、第2～5指を軽く伸展後、第3，4指の掌側基部を叩打、母指が屈曲すると亢進。

正常（ N ） 亢進（ ）

3 PTR（膝蓋腱反射）

亢進時に頸髄症を疑う。

正常（ N ） 亢進（ ） 減弱（ ） 消失（ - ）

B 椎間孔周辺の病変（ヘルニアを含む）を疑う場合

1 Spurling test

頭部を軽度後屈位で患側に軽度回旋し側屈を加えることで、患側の上肢への疼痛やしびれを誘発する。

陽性（ + ） 陰性（ - ）

2 Shoulder depression test

頭部を健側に側屈させながら、患側の肩を押し下げると、患側の首、肩、腕に痛みまたは放散痛があれば陽性。

陽性（ + ） 陰性（ - ）

3 頸椎圧迫テスト

後屈時に首、肩、腕に痛みまたは放散痛があれば陽性。

陽性（ + ） 陰性（ - ）

C 根症状がある場合

三角筋反射 (C5)	正常 (N)	亢進 ()	減弱 ()	消失 (-)
上腕二頭筋反射 (C6)	正常 (N)	亢進 ()	減弱 ()	消失 (-)
腕橈骨筋反射 (C6)	正常 (N)	亢進 ()	減弱 ()	消失 (-)
上腕三頭筋反射 (C7)	正常 (N)	亢進 ()	減弱 ()	消失 (-)

D 胸郭出口症候群を疑う場合

1 Morley test : 神経圧迫 (斜角筋症候群)

鎖骨上窩で斜角筋三角部 (前、中斜角筋の間) を母指で圧迫し、神経叢の圧痛と前腕部への放散痛の有無を判定する (左右を比較する)。放散痛のあるものを陽性とする。

陽性 (+) 疑陽性 (±) 陰性 (-)

2 Adson test : 動脈圧迫 (斜角筋症候群、頸肋症候群)

座位で両手を膝におき、深呼吸で息を止め、頸椎を過伸展し、患側に回旋した時に、橈骨動脈の拍動が変化 (減弱または消失) すれば陽性とする。

陽性 (+) 疑陽性 (±) 陰性 (-)

3 Wright test : 動脈圧迫 (肋鎖症候群、過外転症候群)

座位で両肩関節を外転、外旋、肘 90° 屈曲位をとらせる。この時に橈骨動脈の拍動が消失すれば陽性とする。

陽性 (+) 疑陽性 (±) 陰性 (-)

4 Eden test (肋鎖圧迫テスト) : 動脈圧迫 (肋鎖症候群)

座位で気をつけ姿勢をとり、両上肢を後下方へ引いた姿勢をとる。この時に橈骨動脈の拍動が消失すれば陽性とする。

陽性 (+) 疑陽性 (±) 陰性 (-)

5 Roos test (3 分間拳上負荷テスト) (斜角筋症候群、頸肋症候群)

座位で両上肢を 90° 外転したまま、さらに肘関節を 90° 屈曲して拳の閉閉を 3 分間続ける。上肢のだるさ、痛み、しびれで 3 分間持続できないものを陽性とする。

陽性 (+) 疑陽性 (±) 陰性 (-)